

6

【図鑑の一部】

タンポポの種子は、綿毛のかさを広げて風を待つ。このかさがかすかな風もとらえて種子を遠くへはこんでいく。着地すると種子をおおう細かなトゲが船の錨いかりのようにはたらい、種子を地面につなぎ止めるのだ。果物が熟れて甘くなるのも、植物の“領土拡大作戦”のひとつである。トリやサルなどの動物に食べさせて移動するやり方だ。消化されない種子がフンと一緒にいっしょ出されて、やがてその場で芽を出す。

(ガリレオ工房『びっくりふしぎ 写真で科学④ 植物の素顔』による。)

※「錨」…船をとめておくために、水中にしずめておく鉄のおもり。



【メモ】

〈種子の移動によって仲間を増やす方法〉

- 一つめの方法
綿毛のかさがとらえる風によって種子を遠くへはこんでいく方法
- 二つめの方法
うれてあまくなった果物を
 ア 方法

戸山さんは、植物が仲間を増やすための種子の移動について図鑑で調べ、メモに取りました。【メモ】の【図鑑の一部】の中に入るふさわしい内容を【図鑑の一部】の中の言葉を使って書きましよう。